

痒み過敏とは？**Neuronal sensitization to itch**生駒 晃彦¹ (¹京都大学大学院医学研究科皮膚科学)

近年ヒスタミンの痒みを伝える神経経路が痛みを伝える神経とは独立して存在することが明らかになるなど痒みのメカニズムに関する理解は大きく進展した。しかし現実には、抗ヒスタミン薬の効かない難治性の痒みに我々は悩まされ続けている。ヒスタミン以外の起痒物質を探る研究はこれまでも多数行われ、様々な物質がその候補として挙げられている。一方で痛みの研究では、通常痛みを生じないような刺激が痛みを生じてしまういわゆる痛み過敏が、病態の痛みで重要な役割を担っていることが注目され、その研究が多数なされてきた。痛み過敏に関するメディエーターが痛み治療のターゲットとして現在注目されている。痒みについても、痒み過敏の病態における痒みへの関与が明らかにされつつある。通常ならば痒みを生じないような、もしくは、痛みを生じて痒みを抑制するような外的刺激や炎症性メディエーターが、痒み過敏状態においては痒みを生じることが報告された。このことは、アトピー性皮膚炎など痒み過敏状態にある病態の痒み治療を考えるうえで、絶対に無視できない要素である。と同時に、痒み過敏に関与するメディエーターが、痒み治療の新たなターゲットになり得ることをも示唆している。